

ノ如キハ甲種乙種ノ別ヲ設ケ圖書科ノ配當時數ニ著シキ變更ヲ見タルノミナラズ新ニ作業科ヲ増設セラル、ニ至レリ 地方ニ於テハ此ニ伴ヒ中等學校ノ學級整理廢合等ノ行ハル、アリ 且又學校經濟ノ逼迫ニヨリ圖書手工教員ヲシテ他ノ學科目ヲモ受持タシメントスル傾向漸ク顯著ナルニ至レリ 我師範科卒業者ニツイテ之ヲ見ルモ単ニ圖書若クハ手工ノミヲ担当セルモノハ極メテ僅少ニシテ外ニ工作園藝習字等教科目ヲ兼担スルモノ七、八割ヲ占ムル有様ナリ 甚ダシキニ至リテハ國語、漢文、英語等専門以外ノ學科目ヲ分担セルモノサヘ尠カラズ 情勢ノ變化此ノ如クナルヲ以テ本校師範科ニ於テモ亦教科目ノ内容ニ改善ヲ施シ以テ時勢ノ要求ニ應ゼザルベカラザル時期ニ直面セルコトヲ痛感セザルヲ得ズ 此ノ見地ヨリシテ現在ノ修業年限三ヶ年ヲ一ヶ年延長シテ四ヶ年ニ改メ以テ圖書手工習字ノ外ニ作業科ヲモ課シ時勢ノ要求ニ應セントス

更ニ思フニ教育者トシテ最モ重ンズベキハ人格ノ養成ニアリ 如何ニ學術技藝ニ秀ズルモ人格ニ於テ缺クル所アラバ教育者トシテ其ノ資格ノ半ヲ失フニ至ルコト論ヲ俟タズ 故ニ本校ニ於テハ思フ如クニ致シ美術ノ研究技能ノ習練ト相俟チテ特ニ人格ノ養成ニ力ヲ盡シツ、アリ 幸ニシテ年限ノ延長ヲ見ルニ至ラバ更ニ必要ナル學科目ヲ加ヘ課シテ中等學校ニ於ケル修身教育ノ担当者タリ得ル様教育スルコトヲ得ベシ 速ニ實現セラレンコトヲ希望ス

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重ナルモノヲ學グレバ左ノ如シ

雜件

依頼製作一覽

品目	數量	受託年度	竣工年度	依頼者
胸像	壹基	昭和九年度	昭和九年度	馬 上 孝太郎
參列委員徽章	參百個	同	同	日本赤十字社々々長
古式大鍔附屬武器	壹式	同	同	中學校長協會代表者
メタル金型	壹個	同	同	日本學術協會副會長
銀製記念錢	貳百個	同	同	柴田 桂 太
ホンホンエエー	四百個	同	同	平 尾 贊 平
ネクタイピン	參百個	同	同	日本赤十字社々々長
優賞	桶壹個	同	同	李王職事務官 健太郎
花盛	器貳個	同	同	秩父宮附屬事務官 利男
ブロンズメタル	七個	同	同	農林省會計課會長
奧陸伯銅像修理	壹基	同	同	日本學術協會副會長
噴水塔	貳個	同	同	柴田 桂 太
花盛	器貳個	同	同	農林省會計課會長
六曲屏風	壹雙	同	同	鐵道局技師 次官
				東京市長 課長
				農林省會計課 長
				東京市長 牛塚 虎太郎

『校友会會報』記事抜粋

學校記事〔二。S・九・一〇・二〇〕  
職員辭令

昭和九年五月二十一日

東京美術學校雇ヲ命ス

同年六月十五日

文庫課圖書掛兼標本掛ヲ命ス

前川 春二

依願解雇

前川 春二

同年同月三十日

陸叙高等官六等(内閣)

教授兼 生徒主事 田邊 孝次

教員檢定委員會臨時委員被免(内閣)

同年同月十一日

名譽教授 正木 直彦

同年七月四日

敘勳五等授瑞寶章(賞勳局)

教授 清水 龜藏

國際觀光委員會委員被仰附(内閣)

同年同月十二日

敘勳六等授瑞寶章(賞勳局)

講師 澤口 悟一

教授 津田 信夫

同年同月十六日

敘正七位(宮内省)

教授兼 生徒主事 田邊 孝次

[各通]

昭和九年商工省輸出工藝展覽會審査委員ヲ囑託ス(商工省)

同年同月二十七日

薨去

名譽教授 久米桂一郎

助教 山崎覺太郎

同年同月三十一日

依願解雇

雇 川村 昇

同年八月一日

補野砲兵第一聯隊附

近衛野砲兵聯隊附 陸軍砲兵少佐 森重 幡雄

東京美術學校兼東京音樂學校服務ヲ命ス

野砲兵第一聯隊附 陸軍砲兵中佐 奥野 由郎

東京美術學校兼東京音樂學校服務ヲ免ス

野砲兵第一聯隊附 陸軍砲兵中佐 奥野 由郎

野砲兵第一聯隊附被仰附

野砲兵第一聯隊附 陸軍砲兵中佐 奥野 由郎

野砲兵第一聯隊附被仰附

野砲兵第一聯隊附 陸軍砲兵中佐 奥野 由郎

同年同月五日

休職滿期

休職教授 森 芳太郎

休職教授 森 芳太郎

同年九月一日

陸叙高等官五等(内閣)

教授兼 生徒主事 森田龜之助

同年同月七日

各通

助教 松田 義之

講師 鈴木 信一

○佐々木(一[郎])雇 下谷區谷中坂町七六へ轉居せられました。

○武田[壽]雇 荒川區日暮里町四ノ一〇四九へ轉居せられました。

○清水[平吉]囑託 杉並區大宮前六ノ四四二へ轉居せられました。

○清川[昇]雇 經理課會計掛として勤務せられし處病氣の爲退職せられ歸郷せられました。

○森[芳太郎]休職教授 昭和七年八月六日より休職中でありましたが本年八月五日休職期間満了し退官せられました。

○前川[春二]雇 文庫課圖書掛兼標本掛として勤務せられて居りましたが家事の都合上退職せられました。

○川村[昇]雇 經理課會計掛として勤務せられし處病氣の爲退職せられ歸郷せられました。

○清水[平吉]囑託 杉並區大宮前六ノ四四二へ轉居せられました。

○武田[壽]雇 荒川區日暮里町四ノ一〇四九へ轉居せられました。

○佐々木(一[郎])雇 下谷區谷中坂町七六へ轉居せられました。





小林 久

遠藤 健郎

手島守之輔

淺井 堅治

佐田 勝

佐久間 修

三橋 三郎

徐 鎮 達

守屋 千之

須賀 通雄

杉本 博

特別學生

唐 國 郷

楊 佳 福

兪 成 輝

薛 瀛 生

彫刻科塑造部

稻田 健四

井手 則雄

尹 承 旭

原田新八郎

坂東 文夫

細川 順

川瀬 勝藏

鷹野 忠一

高澤 七郎

舟越 保武

昆野 恒

後藤 一彦

明石 順吉

櫻井 光

佐藤 忠良

金 景 承

森本 清水

特別學生

於 中 和

胡 光 弼

彫刻科木彫部

伊勢 孝志

大村 正夫

横山 文夫

瀧 誠

村山 清光

木原滿三郎

工藝科圖案部

原 大輔

西村登喜男

堀田 巖

河合 龍次

川村儀三郎

吉田 清治

高尾 弘暉

栗原 清

藤田 尙夫

駒井 和郎

澤藤 彰三

三枝 之男

三輪 智一

柴沼 芳郎

鈴木 庄三

工藝科彫金部

太田 光雄

田中 芳郎

齋藤 銈一

北原 士

菅 省美

工藝科鍛金部

荻原 富雄

田澤 清美

工藝科鑄金部

伊坂四郎人

服部 茂夫

川本 芳則

田中 利一

染川鐵之助

山中 勇

工藝科漆工部

西橋 貞一

友田 昌敏

吉田 丈夫

辻 光典

中村 貞康

松村 禮一

淡川 眞義

建築科

伊東 進一

橋本 正直

上野 隆

大住龍太郎

山崎 謙

山本 甚作

小淵二三男

圖畫師範科

石井 進

橋本三三三

村瀬 茂

川野 春彌

田中 昇

瀧本 三郎

辻村八五郎

山田 眞實

前島 三次

船井 美周

有海庄右衛門

荒木 清秋

三井 惣一

秦泉寺正一

疋島 正典

第四十三回卒業證書授與式次第

(三月二十四日午前十時)

- 一、新卒業生入場著席 (第一號鐘講堂北口ヨリ出入)
- 二、職員、參列舊卒業生著席 (第二號鐘講堂東口ヨリ出入)
- 三、來賓著席 (第三號鐘講堂東口ヨリ出入)
- 四、校歌 (一同起立)
- 五、學校長式辭
- 六、卒業證書授與
- 七、學校長告辭 (卒業生前後敬禮)
- 八、文部大臣訓辭 (卒業生前後敬禮)
- 九、卒業生總代答辭 (卒業生前後敬禮)
- 十、式終了挨拶
- 十一、來賓、職員、舊卒業生、新卒業生順次退場

附  
一、退場後、來賓、舊卒業生ハ休憩所ニテ休憩ノ事  
二、退場後、職員、新卒業生ハ直ニ寫眞場へ集合ノ事  
三、式の前(May)後ニ於テ卒業生製作品隨意觀覽  
卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	一九	〇	〇	一九
油畫科	三七	〇	四	四一
彫刻科	一八	〇	〇	一八
木彫部	六	一	〇	七

卒業生姓名卒業製作目錄(席次いろは順)

工藝科	圖案部	一	二	〇	〇	〇	一	二
	彫金部	五	〇	〇	〇	〇	五	
	鍛金部	三	一	〇	〇	〇	四	
	鑄金部	一	〇	〇	〇	〇	一	
	漆工部	五	〇	〇	〇	〇	五	
建築科	六	〇	〇	〇	〇	〇	六	
圖畫師範科	二	三	〇	〇	〇	〇	二	三
合計	二	九	八	四	一	四	一	四
日本畫科	飾窓	本科	今田慶一郎	島根				
	晚春	同	板谷廣起	東京				
	養魚場	同	稻垣虎之助	石川				
	谿の秋	同	新名武美	大分				
	白鷺城	同	河合光兵	庫				
	白絲の瀧	同	田中善美	岐阜				
	市場の午後	同	高木孝太郎	東京				
	春	同	高井惠	福井				
	工場の朝	同	十河正雄	山口				
	霜の朝	同	武藤六郎	岐阜				
	渡船場	同	浦田正夫	熊本				
	隅田のほとり	同	山本正泰	東京				
	添乳	同	小坂泰二郎	東京				







一學期授業日程

一、授業開始 四月十一日(水) 新入生入學式ハ同日午前九時

ヨリ舉行

一、授業日數 自四月十一日(水) 十二週ト四日

一、試驗

1 實技 七月七日(土) マデニ施行(但シ各科二年師範科三年生ハ七月三日(火)マデニ施行)

1 學科 自七月二日(月) 一週間各自受持時間内ニ於テ試験施行、試験ヲ施行セザル學科ハ平常通り授業

但シ各科二年師範科三年生ハ野營演習ノタメ(自六月二十五日―至六月三十日) 期間ニ於テ試験施行

一、夏期休業 自七月十一日(水) 至九月十日(月)

備考

一、各科三、四年修學旅行 自四月十八日(水) 至五月二日(水) 十五日間

一、天 長 節 四月二十九日(日)

一、在學生簡閱點呼 五月 五日(土)

一、身體 檢 査 自五月 八日(火) 至五月 十二日(土)

一、野 營 演 習

豫科並師範科 一年 自五月十五日(水) 三日間(習志野)

各科一年並師範科二年 自五月三十日(水) 三日間(下志津)

各科二年並師範科三年 自六月一日(金) 三日間(富士)

一、各科三年並師範科三年軍事見學 自七月 六日(土) 四日間(富士)

學校記事〔三〕 S・九・十二・一八

職員辭令

昭和九年九月十五日

敍從六位(宮内省)

同 年同月二十日

書記北浦大介不在中教務課教務掛長代理ヲ命ス

同 年同月二十七日

教授兼生徒主事 森田龜之助

講師 齋藤 幸晴

教授 田邊 至

同 小泉 勝爾

同 關野金太郎

同 高村 豊周

助教 松田 權六

同 伊原宇三郎

講師 矢澤 貞則

帝國美術院展覽會審査員被仰付(内閣)

同 年十月一日

教授 森井 健介

同 結城 貞松

勅任官ヲ以テ待遇セラル(内閣)

陸敍高等官四等(内閣)

同 年同月十五日

敍正六位(宮内省)

同 年十一月一日

教授 石田 英一

陸敍高等官六等(内閣)

教授 石田 英一

教授 關野金太郎

同年同月八日

兼田 稔

任東京美術學校書記(文部省)

同年同月九日

書記 兼田 稔

依願免本官(文部省)

同年同月十二日

依願解雇

雇 中原 芳子

東京美術學校雇ヲ命ス 教務課教務掛ヲ命ス

山下 増江

○高村名譽教授 本校名譽教授從三位勳二等、高村光雲先生には本年二月以來胃癌にて林町の自邸に於て只管療養に努められて居りましたが十月十日午前四時遂に薨去せられました 誠に痛惜に堪へない次第であります。

○中原「芳子」雇 教務課教務掛として勤務せられて居りましたが家事の都合上退職せられました。

○羽野「禎三」講師 小石川區指ヶ谷町六九へ、轉居せられました。

○沼田「勇次郎」講師 京都市伏見區正覺町商工省陶磁器試験所官舎へ轉居せられました。

### 運動會雜報

何しろ豫定の時間にはきちんとプログラムに載つてゐる競技をはじめないと、最後にお決まりのグラウンドおけさを踊る頃は、釣瓶落としと謂ふ秋の日が、博物館のドームにかすかな餘映を残し、地にはとつぷりと紫の夜が覆ひかゝるのだ。

そこでピストルの音。

韋駄天達は、振舞ひの赤飯を未だつゝいて、三つもある食堂の何れかに、のんびりと與太つて御座るのか、秋晴れの空にも似たる閑散たる校庭、それでも引かれた白線は目に鮮か、僅かの風に赤い小旗がはたゞく。

美校の生徒らしい物臭さ、上着も脱かずにテープを切つて、ままと賞品の手拭をせしめたのが、又も驅ける氣が出發線の方へ歩いて行く。進行係、清水先生の聲が、ラウドスピーカーを通して徒に空に流れる。このところ、お隣動物園ライオンエチオピア氏と競演のかたち。

それでも、對部リレー豫選が初まる頃にもなると、テントの中に来賓の頭も揃つたし、まはりには見物人の人垣も形造られて来た。

此の頃になつて、やつと運動會役員諸君も、役員らしい役目になりついで、審判係が足りないぞ、などと言つて大童だ。大童と云つたつて、何うせかねてが大きな童みたいな、うちの學校の生徒ではあるけれど。

百足競走といふやつは。賞品貫貫ひには持つて來いの競走だ。假りに五人づゝ五組のむかで様達が走るとし給へ。いや走つてはいけない、よち／＼と歩き給へだ。この五匹の百足様が、中隊教練の並列縦隊みたい、足並み揃へてテープを切つたとしたら、當に賞品係は赤字ものだろう。斯んな事書いて、金澤先生や齋藤先生に叱られたつて、僕は知らない。

對部リレーは、劍道部、短歌部、野球部、庭球部が豫選に残つたが、さすが庭球部だ。早い。あの分では、コートで抜かれた球を良

く拾つて打つことだらう。野球部の盗塁王たちも、何せスターターや審判のモーションは盗めまいから、ゴール前にタツチアウトの態たらく、せめて迂りこみでもやらせたかつた。此間に伍して短歌部の健闘は宣なる哉。廣川先生善戦を祝して莞爾たり。

鱈把み競争で、始めから鱈を握つて駆けたのが、決勝でバレてあたら名案臺無しとなる。腕章の手前、審判員も敏い所を見せる。

サツクレースでインチキに巧な研究科のS氏、袋の新しいのに、文字通り手も足も出ぬ有様であつたが、合法的新戦術を創案して遂に一着。對科レースは、こゝ数年の覇者建築科を蹴つて、斷然たる優勝、師範科チームに校長杯燦然と輝く。記録(一分二〇秒)  
記録のついでに、走高跳一・六〇米、田川(日)。走巾跳五・五



昭和9年11月2日  
運動會余興スナップより  
上、工芸部2年生の「動物園」  
左、油画科3年生の仮装

八 足代(師)。砲丸投射九・八一米、徐(油)、職員競走は何の先生が一着か見落した、黒いモーニングが、あんなに一團となつて急いでは、俄雨に降られた會葬者みたいで、なかに一人々々は辨じ難い。

卒業生競走は、歩武堂々、一人の落伍者もなく皆一着。之が終へて餘興。

餘興監査係の先生方が、素破こそ来れと、グラウンドの入口に歩み寄られると、その頃は肩を押し合つて犇と詰めかけた觀衆の眼がこれからだ云つた耀きを見せて一様に注がれる。さんざ思ひを捻つて、いでたちを凝らした、所謂、上品で無邪氣で悪どくないとお目がねに叶つた餘興だ。

プログラムだけを此處へ連ねて、後は挿入のスナップを見て貰ふ事にしよう。

- ジャングル 工藝一年 幼稚園 油繪豫科
- 病院の火事 油繪一年 動物園 工藝二年
- 民謠祭 工藝三年 紅葉狩 油繪三年
- 彫刻祭 塑造オールスターキヤスト

動物園は寫實の妙を得、紅葉狩に現れたヒットラ1氏は屋臺のおでんを食はず。流石に氏も獨逸語でおでん頂戴とは言へなかつたらしい。

學校記事〔四。S・一〇・二・二八〕

職員辭令

昭和九年十一月十五日

教 授 關野金太郎

同 十年一月九日

富永 惣一

敍正七位(宮内省)

本校講師ヲ囑託ス 但佛語授業擔任ノ事(本校)

同 年同月十七日

教 授 森井 健介

同 年同月十八日

講 師 羽野 禎三

實業學校卒業程度檢定委員會委員ヲ囑託ス(文部省)

工藝科毛筆畫授業兼擔ヲ命ス(本校)

同 年十二月一日

教 授 建昌彌一郎

同 年同月二十一日

鳩ヶ谷敏治

各 通 同 朝倉 文夫

同 北村 西望

陸絛高等官三等(内閣)

○朝倉〔文夫〕教授 下谷區谷中天王寺町二〇へ轉居せられました

昭和九年十二月三日

正四位勳三等 和田 英作

○岡〔四郎〕助教授 板橋區練馬土支田町一ノ五三四へ轉居せられました

正四位勳三等 岡田三郎助

○内藤〔春治〕助教授 瀧野川區田端町一一四へ轉居せられました

各 通 從四位勳三等 藤島 武二

從五位勳五等 清水 龜藏

正 六 位 香取秀治郎

○鎌倉〔芳太郎〕講師 中野區沼袋町二四六へ轉居せられました

帝室技藝員ヲ命ス(宮内省)

裏辻 憲道

○佐々木〔總〕雇 下谷區上根岸一一〇羽衣方へ轉居せられました

同 年同月六日

東京美術學校雇ヲ命ス 文庫圖書掛兼標本掛ヲ命ス(本校)

○渡邊〔正実〕雇 世田谷區松原町四ノ四二〇へ轉居せられました

同 年同月十五日

文庫課圖書掛長ヲ免ス(本校)

○澤村〔敦子〕雇 大森區山王二ノ二、〇六七宇都宮方へ轉居せられました

同 年同月十五日

講 師 新 規矩男

○西間木〔久郎〕雇 小石川區原町三一伊藤方へ轉居せられました

文庫課圖書掛長ヲ免ス(本校)

講 師 石澤 正男

○新〔規矩男〕講師 學術研究の爲約八ヶ月の豫定を以て北米合衆

文庫課圖書掛長ヲ命ス(本校)

教 授 建昌彌一郎

國へ出張を命ぜられましたが目下紐育メトロ

昭和九年十二月十五日

教 授 建昌彌一郎

ポリタン美術博物館に滞り、研究を續けられ

敍從五位(宮内省)

て居ります

同 年同月十五日

同 年同月十五日

て居ります